

文学部

文学部生の

リアルな！学生生活

vol.19



文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

好奇心で乗り込んだオタクゼミ

私が所属する社会情報学専攻では、2年修了時に所属するゼミを選択することになっていますが、ゼミの数も多く、なかなか所属するゼミを決めることができませんでした。どうせなら、今までまったく勉強してこなかった分野を学びたいと思い、オタク文化をはじめめとするポピュラー文化を研究する、辻ゼミへの所属を決めました。このゼミは、鉄道、アニメ、ジャニーズ、妖怪など、さまざまな分野に精通している学生が集結した、いわゆる「オタクゼミ」でした。

そのような分野に疎かった私は、さまざまなオタク用語が飛び交う授業について行けず、引け目を感じることも多々ありました。しかし、今まで知ら



所属するゼミの集合写真

なかつた世界を熱弁し、その魅力を伝えるメンバーの話は大変おもしろく、オタク文化そのものに寛容になりました。人生初のコミケへの参加も、このゼミに入らなかつたら経験しなかつたと思います。

現在は、以前から興味があった音楽の分野で、現在の音楽市場や業界、人々の音楽との関わり方が過去からどのように変化しているかを調査し、卒業論文を書いていきます。

アスリートの思考術

私は、ゼミ以外には体育連盟男子ラクロス部に所属し、現在は主将として



ラクロス部の主将も務めた筆者

大学での出会いが、新たな学びを生む

おかもと あさき
岡本 朝来

文学部人文社会科学情報学専攻4年
静岡県立焼津中央高校出身

リートで、私にさまざまなことを教えてくれました。チームの現状をいかに把握するか、目標から逆算して練習を組むこと、考えてスポーツをすること、言葉にすれば当たり前のことばかりですが、私はやっているつもりになっていただけで、ほとんどできていませんでした。二人の勝利に対する執念と努力の量は、まさしく本物でした。本物に触れたことで私の考えは徐々に変化し、以前よりもチームのことを考えられるようになったことを実感しました。

就活と部活動

大学生活での大きなイベントとして、就職活動があります。私はラクロス部での活動が結果的に多くの方に評価され、第一志望の企業から内定をい



ラクロス部は100人を超える部会に

ただくことができたと考えています。それは、ラクロス部の活動そのものが好きで、心の底からがんばりたい、努力したいと思えるものだったからだと思えます。

特に、主将として取り組んだ2018年度は、さまざまなことを犠牲にして、どうやったら目標である学生日本一を達成できるか、常にチームと向き合って考え続けてきました。部員総勢110人が、自分と同じように多くのことを犠牲にしているため、結果を何としても出さなければという重圧と常に戦ってきました。

From the Faculty of Letters



文学部
だより



文学部の “魅力の発信者”

文学部事務室
うめざわ 美帆
梅沢 美帆

皆さま初めまして。7月より日本比較法研究所事務室から文学部事務室へ異動してまいりました梅沢美帆と申します。

7〜8月に志願者向けのイベントである「特別公開講座」と「オープンキャンパス」が開催されました。どちらも主に高校生とご父母を対象としたもので、大学や学部選びの参考としてもらうための模擬授業や在学生・教職員による大学紹介などを行う、大学の魅力を発信するためのイベントです。ご子女の入学前にご参加いただいた方も多いと思います。

2018年の夏のオープンキャン

パスには約2万人の方がご参加ください、活気にあふれていました。文学部では、模擬授業、学部ガイダンス、個別相談ブースを実施しましたが、その特徴は、授業以外の文学部の紹介を、教職員ではなく主に在学生が担当することです。学生目線での大学生活の楽しさ、大変さ、コッなどを、授業、試験の話から学食、チュー王子（写真の受験生応援中央大学マスコットキャラクター）の話まで、雑談を交えながら「ぶっちゃけて、フランクに」高校生に伝えており、それによってより具体的かつリアルに大学生活のイメージが湧くのだと

思います。何よりも、相談にのるの在学生自身が楽しそうに話していること、伝えたいことが尽きない様子が印象的でした。文学部生の自身が経験や考えを人に伝える力の高さが表頭しており、これが就職率の高さにもつながっているのだと感じました（2017年度就職率約97%）。在学生の力によって大学の魅力が十分に伝わったことと思います。

私もこれから発信者の一人として、学生と一緒に中央大学の、文学部の魅力を、広く深く伝えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願

そのため、日々の練習のみならず、部員の体調管理、組織運営などさまざまな面からチームを良くしようと試行錯誤を繰り返したことが、自身にとつて最も成長につながった部分だと感じています。さらに、大学生活を通して100人規模の組織のリーダーを任せてもらい、その組織を成長させるとい

う使命を担ったことは、ほとんどの人が体験できない貴重な経験だったと思います。このような経験が、就職活動

という場で評価されたと実感しています。

好きで始めた部活動に本気で取り組んだ姿勢が、結果的に就職活動という場で評価され、自分自身を認めていただいたことは大変幸せなことでした。そのような環境を与えてくださった方々に感謝しています。

これまで述べてきたように、中央大学にはさまざまな場所で努力をしている、魅力的な人たちがたくさんいます。



学業と部活動を両立させた学生生活

こうした人たちに出会えたこと、こうした場所を提供してくれた大学に、とても感謝しています。